

神奈川県水産技術センターメルマガ 158-162

- no158 2006年8月25日 P1
漁業者グループの紹介（その1）
「さかなグッズ」コレクション（その10） 雑もの(1)（キッチン陶製）
- no159 2006年9月1日 P15
機関の名称は時代とともに変わる
いわゆるホームページのこと
神奈川県漁協（漁業の現場）紹介 34
- no160 2006年9月8日 P20
密漁
あなご学うんちく（2）
- no161 2006年9月15日 P24
突棒漁
釣人のマナー
- no162 2006年9月22日 P28
台風(T0612)の教訓
バラクーダ出現！
神奈川県漁協（漁業の現場）紹介 35

神奈川県水産技術センター メールマガ158

神奈川県水産技術センターメールマガ VOL.158 2006-8-25

-- Fish-mag >°)))< -----

/KN/ 神奈川県水産技術センターメールマガジン VOL.158 2006-8-25

~~~~~

## □ 研究員コラム

- 漁業者グループの紹介 (その1) (相模湾試験場 中川 研)
- 「さかなグッズ」コレクション (その10) 雑もの(1) (キッチン陶製)  
(管理部 亀井 正法)

## ○ 漁業者グループの紹介 (その1) (相模湾試験場 中川 研)

前回は、普及指導員の仕事について書かせていただきました。  
今回からは、前回のお約束どおり漁業者のグループについて紹介させていただきます。  
第1回目は、小田原市漁業協同組合刺網部会について紹介させていただきます。

かつて小田原市内には、10の漁業協同組合があり、それぞれの漁協に所属する刺網漁業者が個々に漁業を営んでいましたが、漁場全体の資源管理や漁場利用の秩序を図るため、また、小田原漁港における共同の作業場等の整備のため、地域の刺網漁業者自らの働きかけにより、平成2年に「固定式刺網漁業者協議会」を発足させました。

平成5年に市内10漁協が解散し、新たに小田原市漁業協同組合を設立、「固定式刺網漁業者協議会」は、「小田原市漁業協同組合刺網部会（以下、部会とします。）」として設置されました。

部会活動は、主に主要漁獲対象であるヒラメを中心としており、ヒラメの漁獲体長制限や漁具・漁法の制限、漁期の制限等を設け、併せてヒラメ種苗の放流や標識放流、稚魚の中間育成等にも取り組んでいます。

また、ヒラメ以外にもコンクリートブロック等を用いたイセエビ礁の設置試験や春先に多く漁獲されるアンコウの標識放流調査など様々な活動を行っています。

なかでも特筆すべきは、ヒラメの漁獲体長制限です。

かつて、小田原ではヒラメの単価は35cm以下は、安価で35cmを越えると高値で取り引きされていました。平成2年には、漁業者の自主的な努力として春先に多く獲れる小型魚の漁獲を制限していましたが、小田原市漁業協同組合が設立した平成5年からは、同漁協の共同漁業権行使規則にこの漁獲体長制限を規定し、罰則も設け、併せて地元の魚市場に対して、35cm以下のヒラメを取扱わないように協力を依頼し、漁獲体長制限を徹底させています。

神奈川県内には、他にもヒラメを漁獲している地域があり、各々漁獲体長制限を設けたりしていますが、この35cmという体長制限は他地域よりも大きく、また行使規則に規定しているのは、小田原だけです。

また、漁獲体長制限の35cmは、神奈川県内のヒラメ資源管理の目標値として定められています。

平成10年からは、漁獲された体長35cm以下のヒラメに標識を付けて放流し、ヒラメの移動等について調査も行っています。

現在までの結果、35cm以下で再放流したヒラメは、80%以上の確率で地先海面にとどまっていることが確認され、自らがやってきた漁獲体長制限の認識に役立っています。

その他、平成3年から部会員の負担でヒラメ種苗を購入し、地先海面に放流。さらに平成7年からは、全長4-5cmのヒラメ種苗を約9cmにまで成長させて放流する中間育成も行っています。

ヒラメ以外にも活動を広げています。平成13年からの3年間、狭いイセエビ漁場の造成試験を行い、効果調査も行いました。その結果、設置後の潜水調査でイセエビ数尾が確認されています。

また、平成13年から新たに続けている調査があります。アンコウは、冬場の12月-2月までの寒い時期は、高級鍋料理として需要が高いのですが、暖かくなる4月-5月の春先には、需要がなくなり、価格も下落してしまいます。

しかし、小田原では皮肉にも、価格が高い冬場には、漁獲が伸びず、価格が下落する春先に多く獲れる傾向にあり、部会員は悩んでいました。そこで、価格の高い冬場に、アンコウが何処にいるのかを調べるため、春先に漁獲したアンコウに標識を付けて放流し、その移動を調査しています。

現在までに体長40cm以下の小さいアンコウは、愛知県や高知県にまで移動することが確認されています。

平成15年の共同漁業権切り替え時には、今まで各地域ごとに違った漁具、漁法等について標準化も図りました。

このように、漁業者自ら資源管理や栽培漁業の先進的な取り組みの功績が認められ、第25回全国豊かな海づくり大会において、資源管理型漁業部門の大会会長賞（1番高位の賞）を受賞しています。

今回は、小田原市漁業協同組合刺網部会を簡単に紹介させていただきました。我々普及指導員は、前述の部会のように、自ら積極的に資源管理等の活動を行っていくグループを陰から応援、サポートしています。

また、このような漁業者グループの活動について、もっと皆様に知ってもらい、豊かな海づくりに取り組む漁業者の陰の努力を理解していただけたらと思っています。

写真1：標識を付けたヒラメ

写真2：標識を付けたアンコウ

写真3：部会が製作したイセエビ礁

写真4：イセエビ礁で確認されたイセエビ

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450011/p582837.html>

○「さかなグッズ」コレクション（その10） 雑もの(1)（キッチン陶製）  
（管理部 亀井 正法）

前回までは、「箸置き」とか「お皿」とか、用途別に統一して整理できるほど品数があるものを紹介したのですが、今回からはそうはゆきません。つまり、用途別にするには、それぞれコレクション数が少ないもの、または、何に使うのか？よく分からない、逆に言えば、考えようによっては何にでも使えるようなもの、こんな日用品にも「さかな」がデザインされているのだア！と感心させられるもの、などを紹介してゆこうと思います。

実は、さかなグッズコレクションの究極の楽しさは、この雑もの収集にあると言えます。この手のグッズを漁るには、時間の積み重ねと地道な努力が必要です（何でもそうでしょう）。なにしろ、目的物が定まっておられませんから、膨大な日用雑貨から見つけるわけですから、大変です。でも、コツがあるのです。「暇ができたから、漁りに行くか」と意気込んで出かけても、なかなか見つからず、かえって疲れるばかりで、楽しみが半減するケースが多かったように思いますが、人と待合わせする時や汽車などに乗る時に、かなり早めに目的地について、その時刻までその周辺を漁るのです。「短時間で漁らなければならない」という集中力と「これに決めよう」という決断力で、不思議と良いものを発見できたのです。そのうえ、待ち合わせ時刻には遅刻しませんから、一石二鳥です。そんな中、「エッ、何これ、面白い！」思わず声を発してしまうようなグッズを見つけた時の喜びは、何ものにも変え難いものがあります。

さて、用途別に整理できない雑物とは言え、ある程度はまとめて紹介せざるを得ませんので、今回は、キッチン関係で、陶製のグッズを主体にしました。主なものを並べてみますと、楊枝入れ、ミルクピッチャー、小物蓋付き容器、おろしがね（陶製でも「かね」？と言うのかな）、おたま立て、きゅうす、そば猪口、茶碗蒸し用茶碗、土鍋などです。中には用途不明なものもあります。なにしろ、さかなグッズというだけで購入してきますから、家へ帰ってからテーブルに置いて、「さて、塩辛入れにするか？」それとも「イクラでも入れるか？」と頭を悩ますのも楽しいものです。グッズを見ていただいて、もし、良い使い方があったら教えてください。

（今回から、一応、用途別項目を入れておきました。）

亀井「さかなグッズ」コレクション（その10）雑もの(1)（キッチン陶製）

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450011/p582838.html>

さかなグッズコレクション：バックナンバー一覧

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450011/p582272.html>

[編集後記]

当所メルマガの読者には、魚や海、漁業に興味をお持ちの方が多いと思いますので一冊の本を紹介させていただきます。神奈川県水産試験場(当所の旧名称)の場長を務められた栗原伸夫氏が書かれた「くりさんの水産雑学コラム100」です。

栗原氏は、長野県や神奈川県の水産行政・研究の仕事に長く携われ、公職を退かれた後もホームページを開設し、「水産雑学コラム」と称して魚や海のことはもとより魚食文化なども含めた水産に関連する広範な記事を掲載されていました。

「くりさんの水産雑学コラム100」は、平成9年に書き始めた「水産雑学コラム」が今年で100回を迎えたことから、6月に単行本として出版されたものです。

詳しい内容や購入方法などについては、検索エンジンで「水産雑学コラム」を検索すれば簡単に知ることができます。

-----  
■水総研メールマガジン（毎週金曜日発行）  
■配信の変更、解除は、こちらから↓  
<http://www.agri-kanagawa.jp/suisoken/mailmag/>

発行：神奈川県水産技術センター 広報部会  
住所：〒238-0237 神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子  
電話：046(882)2311  
ご意見・お問い合わせ：[fish.415@pref.kanagawa.jp](mailto:fish.415@pref.kanagawa.jp)

-----  
[メルマガTOPへ](#)

## 神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

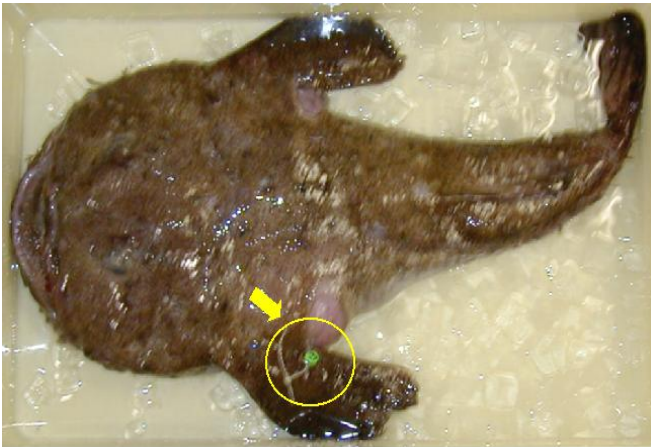


# 神奈川県水産技術センター メールマガジン158-1

漁業者グループの紹介（その1）



標識を付けたヒラメ



標識を付けたアンコウ



部会が製作したイセエビ礁



イセエビ礁で確認されたイセエビ

[記事に戻る](#)

## 神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

# 神奈川県水産技術センター メールマガジン158-2／ 亀井「さかなグッズ」コレクション（10）：雑もの-1（キッチン陶製）

## 亀井「さかなグッズ」コレクション（10）：雑もの-1（キッチン陶製）

### コレクションの記事一覧

クリックすると拡大した画像が表示されます。（画像は直接表示しますので、戻る際はブラウザの戻るボタン等を使ってください。）



[ざるそば皿](#)



[茶托](#)



[おろしがね 1](#)



[おろしがね 2](#)



[おろしがね 3](#)



おろしがね 4



おろしがね 5



蕎麦つゆ徳利と蕎麦猪口 1



蕎麦猪口 2



おたま立て 1



おたま立て 2



楊子入れ 1



楊子入れ

楊子入れ 2



楊子入れ

楊子入れ 3



箸置き

でかい箸置き

箸置き (大型) 1



でかい箸置き

箸置き (大型) 2



ミルクピッチャー

ミルクピッチャー



醤油差し

2005.08.0

醤油差し 1



醤油差し

2005.08.0

醤油差し 1、蓋を外した様子





醤油差し 2



醤油差し 2、蓋を外した様子



急須 1



急須 1、蓋を外した様子



急須 2



急須 2、蓋を外した様子



茶筒



砂糖入れ



同、蓋を外した様子



蓋物 1



蓋物 1、蓋を外した様子



蓋物 2



蓋物 2、蓋を外した様子



蓋物 3



容器  
蓋物 3、蓋を外した様子



その他容器  
蓋物 4



その他容器  
蓋物 4、蓋を外した様子



その他容器  
蓋物 5



容器  
蓋物 5、蓋を外した様子



その他容器  
蓋物 6



その他容器  
蓋物 6、蓋を外した様子





蓋物 7



蓋物 7、蓋を外した様子



中国茶飲み



同、絵柄



茶碗蒸し碗



徳利



ガラス容器



土鍋 1



土鍋 2



土鍋 3



その他容器 1



その他容器 1、受け皿



その他容器 2



その他容器 2、正面図



[その他容器 3](#)



[その他容器 3、口の様子](#)



[その他容器 4](#)



[その他容器 4、正面](#)

---

[ページ先頭へ戻る](#)

## 神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

# 神奈川県水産技術センター メールマガ159

-- Fish-mag >° )))< -----

/KN/ 神奈川県水産技術センターメールマガジン VOL.159 2006-9-1

~~~~~

□研究員コラム

- 機関の名称は時代とともに変わる (所長 今井 利為)
- いわゆるホームページのこと (資源環境部 樋田 史郎)
- 神奈川県漁協(漁業の現場)紹介34 (企画経営部普及指導担当 鎌滝裕文)

-
- 機関の名称は時代とともに変わる
(所長 今井 利為)

神奈川県の水産の試験研究機関は、神奈川県水産試験場、神奈川県水産総合研究所、神奈川県水産技術センターと名称が変わってきました。

私にとっては水産試験場が一番馴染みの名称で、漁業者にもこの呼称が一番定着していると思っています。

各県の水産試験研究機関では水産総合研究所、水産技術センター、水産研究開発センター、水産振興センター、水産総合研究センター、島しょ農林水産総合研究センター、科学技術振興センター水産研究部、水産海洋センター、水産研究センター、農林水産総合技術支援センター、水産海洋技術センター、農林水産研究センターと様々な呼びかたをしています。

機関名称は、それぞれの時代の目標や県の組織のあり方などを反映しています。

水産試験場は水産業の振興を産業政策に掲げてきた時代として区分されます。水産試験場が民間より先駆けて漁場の開発、探索などの先達調査を行って、漁船を誘導する例が典型的なものでした。業界の意向として、魚のとり方、どこに行けば好漁が見込めるかなどに強い関心がありました。この時期は、明治から昭和にかけて水産にとっての開発の時代といえます。

日本経済が昭和60年のプラザ合意による高度経済成長の終焉と円高不況に見舞われているとき、地域活性化と文化向上のキーワードとして、海を資源とする産業、経済活動を総称する三浦市から「海業」が提唱されました。また、国では漁獲量の減少に伴い、水産資源の特性である再生産の確保と限りある資源を有効利用するため「資源管理」の必要性が叫ばれるようになりました。

こうした背景とともに、県として科学技術政策が謳われ、さまざまな水産研究課題に対して総合的に対応する目的で「水産総合研究所」に名称を変更しました。

「水産総合研究所」時代は、従来、水産の対象ではない「遊漁」、「水産物消費」を研究対象に加えるなど、研究分野の翼を広げて、如何に効率的な漁業経営を目指すかに重点が置かれてきたとも言えます。

現在の機関名「水産技術センター」は「総合研究所」から「技術センター」に変更された意味合いとして、私なりの解釈をしますと次のようになります。

「学業えて、業滅びる」ではいけませんので、今までの諸先輩がたの業績を踏まえつつも、次の時代の新しい課題に対して果敢に挑戦し、技術と経営を合わせた生業を漁業者、水産加工流通関係者、消費者とともに作り出し、水域とそれに続く陸域の多面的機能を生かした産業を先導する機関でありたいと願っています。

また、漁場環境の保全と回復が水産生物生産の基盤ですので、多くの県民の理解を得て、社会活動による環境への負荷を軽減するための情報を発信し、環境改善の方法を実践・実証していく機関にしたいと思っています。

時代の変化とともに産業の位置付けが変わり、機関の名称が変更されてきましたが、県民の皆様とともに、課題の解決に向かって、職員一同でがんばっていきたくと思っていますので、ご支援のほどよろしく申し上げます。

-
- いわゆるホームページのこと
(資源環境部 樋田 史郎)

メルマガ読者の皆様は、インターネットとホームページという言葉を知らない人はいないと思います。「メールは見るがホームページは知らない」と言う人は、かなりの例外かと思います。「WWWは知っているがホームページは知らない;-)」と嘯く

人は・・・それは冗談ですね。ところで、この「ホームページ」という言葉、「いわゆる」と前置きしていますが、実は本来は誤った言葉なのです。ホームページが普及する前からインターネットに親しんでいた者としては、もどかしい気はしますが、すっかり定着した日本語になっており、もはや逆らえません。

十年一昔と言いますが、十余年前にはインターネットにホームページはありませんでした。World Wide Web(WWW、ホームページの本名)は、研究者間の知識ベースの共用の支援を目指して、ティム・バーナーズ・リー卿(一昨年にエリザベス女王からナイトに叙せられたそうです)によって発明されました。ホームページは、HTML(ハイパーテキストのマーク付け言語)で記述して、HTTP(ハイパーテキスト転送規格)でコンピュータ間で転送して閲覧されます。これらの技術規格が正式に規定されたのが1996年で、まさに十年前です。日本でインターネットが家庭に徐々に広まりだしたその頃から、「ホームページ」と言う表現が早くも広まっていました。当所を含む本県の農林水産系試験研究機関は、1997年にホームページで情報提供を開始しました。その後、国内でホームページは爆発的に普及するようになり、当所はイベントやトピック情報を提供して皆様のニーズに応じてきました。現在の当所のホームページ入口のデザインは、そのころの1999年に作られました。

・・・紙面も尽きてきましたので、ホームページのデザインに関するお話しを続編で書きたいと思います。

〇神奈川県漁業現場の紹介 3 4

今回は、横須賀市東部漁業協同組合鴨居支所を紹介いたします。

横須賀鴨居は、三浦半島の東端の観音崎のすぐ南側に位置し、温暖でどかな漁村という感じです。晴れた日には対岸の房総半島が良く見え、特にギザギザした鋸山はよく目立ちます。私ごとではありますが生まれ育ったところなので、この地には愛着があります。仕事で現場に行ったときに小学校時代の友人と2回ほど偶然にも遭遇したことがあります。友人が多い漁村です。この漁村も漁師さんは減っているだけに友人に漁師さんがいないことがすこし寂しい気もしますね。

ここは鴨居のタイというくらいマダイが有名なところでもあります。また、横須賀市の無形文化財に指定されている「とっぴきぴーおどり」などもあり歴史もある漁村です。

この地区の主な漁業は、中型まき網、刺網、一本釣り、はえなわ、ワカメ、コンブ養殖等です。

この漁協には、港がふたつあります。鴨居港と大室港です。鴨居港は、小さな漁船と釣り船がある小さな港という感じです。典型的な漁村のイメージそのままという感じです。一方、大室港は釣り船が多いですが、中型まき網船団もあり、漁港というイメージも色濃く残っています。すぐ隣にはかもめ団地と光洋小学校があり、団地の中の漁港というイメージがあります。鴨居港とはイメージがちょっと違います。

鴨居港はどかな漁港というイメージですが、昔とは港の形が変わりました。港内が埋め立てられ作業スペースがかなり広くなりました。昔の漁港の面影が私の頭の中に残っているだけに少し残念という思いもあります。

大室港は、昔とほとんど変わっていません。変わっているものといえば船の大きさくらいです。大室港はペリーで有名な浦賀というところに近いところにあります。漁協職員の中西さんと斉藤さんは、怖くて近寄り難いイメージのある漁港にやさしいイメージを与えてくれています。

横須賀市東部漁業協同組合鴨居支所

住所 〒239-0813横須賀市鴨居2-31-7

電話 046-841-0334

行き方 京急線浦賀駅より京急バス観音崎行きで鴨居(かもい)バス停下車徒歩7分、または、京急バスかもめ団地行きで脇方(わきがた)バス停下車徒歩3分です。

鴨居港周辺などの写真はこちらから<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450011/p758044.html>

(取材：企画経営部普及指導担当 鎌滝)

(次回は、横須賀市東部漁業協同組合北下浦支所を紹介させていただきます。私が普及指導員として受け持っている地区は、横浜市の鶴見から横須賀市の津久井というところです。北下浦支所は私が受け持つ担当区の最南端に位置します。どかな地区ですが立派な漁港を持っています。ご期待ください。)

[編集後記]

8/24に、相模湾の小田原沖においてマメジ(クロマグロの幼魚)41尾に標識(黄色のチューブ)を付けて放流しました。再捕された方は当センターまでご連絡をお願いします。

■水総研メールマガジン（毎週金曜日発行）
■配信の変更、解除は、こちらから↓
<http://www.agri-kanagawa.jp/suisoken/mailmag/>

発行：神奈川県水産技術センター 広報部会
住所：〒238-0237 神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子
電話：046(882)2311
ご意見・お問い合わせ：fish.415@pref.kanagawa.jp

[メルマガTOPへ](#)

神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

神奈川県水産技術センター メールマガジン159

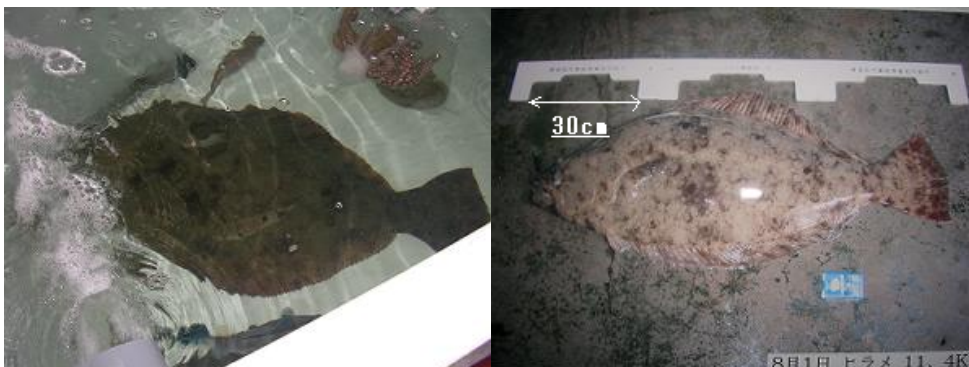
横須賀市東部漁協鴨居支所周辺の写真



漁協事務所は、鴨居港にあります。のどかな漁港らしくこじんまりとしています。事務所のすぐ横に活魚水槽などがあります。



左側の写真は鴨居のメインストリートです。小さい漁村というイメージですね。右側の写真は、通称第1防波堤と私が小さいころ地元の人が呼んでいたところです。現在は埋め立てられ左側に植栽などが見えますが、昔はこの小さな防波堤は単独で存在し、よく釣りをしました。今では、とても釣れそうにないですが、昔はシロギス、メゴチなど結構釣れたものです。写真の真中に鴨居神社（八幡神社）の白い鳥居が見えます。



港で漁師さんと話していたら「大きいヒラメが揚がったぞ」と聞いて、水槽を見てみたら、底にへばりついている大物がいました。このヒラメは重量で11.4kgあります。回りの魚もそれなりの大きさですが、かなり小さく見えました。右側の写真のスケール1本分は内側の部分で30cmあります。大きさが想像できますでしょうか？



鴨居港内の海面スペースは減りましたが、岸壁、作業スペースは広くなりました。港の完成碑が漁協のそばに建っています。日付は、平成15年3月吉日と書いてありました。完成したのはつい最近です。



大室港です。団地や小学校が後ろに見えています。住宅地の中の港というイメージですね。ここは釣り船が多いですが、中型まき網漁船もあります。



漁村につきものでしょうか。鴨居神社（八幡神社）です。私も小さいころお祭でお世話になりました。この神社には大きなイチヨウの木があります。右側の写真は、漁協職員の中西さん（左側）と斉藤さん（右側）です。いつもお世話になっている美人職員さんです。

[記事に戻る](#)

神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

神奈川県水産技術センター メールマガ160

神奈川県水産技術センターメールマガ VOL.160 2006-9-8

-- Fish-mag >°)))< -----

/KN/ 神奈川県水産技術センターメールマガジン VOL.160 2006-9-8

~~~~~

□研究員コラム

- 密漁 (栽培技術部 照井 方舟)
- あなご学うんちく(2) (資源環境部 清水 詢道)

○密漁 (栽培技術部 照井 方舟)

以前このメルマガで「アワビ資源回復計画」についてご紹介させていただきました (No.139)。

メルマガ139号へのリンク

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450011/p582868.html>

漁業者自らが禁漁区を設け、種苗を放流し、適正な漁場管理を行い、親貝を育成、そして、その産卵により減少しているアワビ資源を倍増させようという壮大な取り組みです。

この取り組みに先立ち、一部の禁漁区で今年3月に種苗放流を行いました。放流後も何度か潜水調査を行いました。順調に生残・成長しているようです。

しかし、5月末に大変残念なことが起こってしまいました。最初からある程度懸念していたことではありますが、この禁漁区の中の1つが密漁の被害にあってしまいました。漁協、警察、海上保安部の協力により、3人組の密漁者が捕まりました。押収されたアワビ・サザエ類の中には、3月に放流した標識付きのアワビも混ざってました。証拠品として留め置かれた後、漁協に帰ってきましたが、弱っていたので、当センターで一晩養生させた後、私が潜って再放流してきました。

(写真1 密漁された標識アワビ)

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450011/p582834.html>

あとで聞いた話ですが、この密漁者は常習で、たびたびこの地でも密漁していたようです。また、この密漁者の他にも数件の密漁目撃情報もあります。せっかく漁業者が禁漁区にして大切に守っていても、他所から来て密漁されては元も子もありません。この計画の成功を信じて調査を行っている私としては、腹立たしい事この上ありません。現場で実際に資源回復に取り組んでおられる漁師さんたちは、もっと口惜しかったと思います。

調査で潜っていると密漁者が落とされたと思われる道具を発見することがあります。また船で航行中も背の立つ位の深さのところで何かを獲ってるらしい漁師でない人を見かけることがあります。結構、身近で密漁が多いことを実感します。

(写真2 潜水調査で拾った密漁道具)

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450011/p582834.html>

密漁(漁具・漁法、漁獲サイズ・漁期の違反等)については、メルマガ157号で原田研究員が説明していますので、今回は省略します。

メルマガ157号へのリンク

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450011/p582839.html>

密漁者は、次の3つのパターンに分けられると思います。

まず、一般の方が遊びで、虫捕りや釣りの感覚で、法令違反になるとは知らずに獲ってしまうもの。件数としては一番多いと思います。行政や漁業者が根気よく説明、理解を求めていく必要があると思います。

次は、密漁を常習とし、利益を得ている者。組織的かつ手口が巧妙または暴力的であったりと、なかなか厄介です。被害額は最も多いと思います。

3番目は、漁業者自身による密漁。これも許せません。本県ではありませんが、新聞によると今年だけでもC県では漁協組合長らが、A県では漁協役員兼「密漁監視員」らが密漁で捕まっています。また昨年S県では、漁協役員ら43名が漁協ぐるみの密漁で逮捕されています。

先日、全漁連主催の「海のルール説明会」が県内で開催され、そのお手伝いに行ってきました。親子連れの参加者に海のルール（密漁を含む）の説明のあと、磯遊びと生物の観察を行いました。大変有意義なイベントで、楽しみながら海や漁業に理解を深めてもらえたと思います。このような取り組みを広げ、皆で協力して海と水産資源を守っていきたくて思っています。

このイベントの時、海上保安部の方が言うておられました。「海で密漁等の不審な人を見かけたら118番へ通報してください」と。あまり知られていないかもしれませんが、警察の110番のように、海での事件・事故は局番なしで118番です。かける必要がないことを祈りますが、もしもの場合に備え、覚えておくことをお勧めします。

最後に、つい先日、Aテレビで三浦半島の密漁について取り上げており、ご覧になった方もいらっしゃると思いますが、番組の最後で解説者が「被害額が1万円とか10万円とか少額なら逮捕されない」と言うていましたが、これは間違い。量にかかわらず違法であれば捕まります。

密漁に対し強い憤りを覚えずつ書いていたため、長くなってしまいました。最後に密漁がなくなり、アワビ資源が増大することを切に祈ります。

---

#### ○あなご学うんちく（2）（資源環境部 清水 詢道）

日本全国のマアナゴ漁獲量は、近年減少していますが、おおむね8-9千トン前後です。瀬戸内海沿岸の各府県（兵庫、愛媛、山口、大阪など）と愛知県、島根県、福島県、宮城県などで毎年多くの漁獲があげられています。神奈川県では2-3百トン前後、全国で10番目くらいです。マアナゴの漁獲方法は大きく分けて2つ、ひとつは「底びき網」系、ひとつは「はえなわ」系です。底びき網系は、小型底びき網（兵庫、愛媛、山口など）と沖合底びき網（島根、福島など）、はえなわ系はあなご筒（宮城、神奈川など）、あなご籠（大阪など）にわかれます。神奈川では漁獲量の90%以上があなご筒によるものです。

さて、このあなご筒漁業ですが、そう歴史の古いものではありません。漁具の主要な材料である石油化学製品（塩化ビニールなど）が大量に、安価に提供されるようになった1960年代以降に発展した漁法です。神奈川県でのあなご筒漁業は、1960年代はじめに横須賀の漁業者グループと私たちの先輩職員が協力していろいろな漁法を調査した結果、もっとも有効な漁法であるとして採用されたのがはじまりです。宮城県では、それまでは竹筒の節を抜いて使っていた、といいますが、やはり60年代以降は石油化学製品に変わっていったといえます。

日本人が全体としてどのくらいの量のマアナゴを食べているか、は残念ながらわかりません。首都圏の巨大な台所、東京中央卸売市場（通称、築地市場）には1年間に4千トンのマアナゴ（活魚、鮮魚、冷凍）が入荷しています。この全部を首都圏（東京、埼玉、千葉、神奈川）だけで消費するわけではないのですが、仮にそうだとすると、首都圏の人口は全国の約26%ですから、ざっとみて日本人が1年間に消費するマアナゴは1万6千トン、国内漁獲量だけでは不足、ということになります。不足を埋めているのはもちろん輸入です。

1980年代から中国、韓国、90年代に入るとこれに加えてチリ、ペルー、アルゼンチンなどの南米諸国からの輸入が始まったようです。中国、韓国のは日本と同じマアナゴですが、南米諸国のは分類的には全く違う種類で、実はウミヘビの仲間であるといわれています。輸入業者から名前をつけることを頼まれた魚類学の大家が「マルアナゴ」と命名したことで、アナゴとして輸入されるようになり、もともと現地の人は食用にせず、日本に輸出するためだけに漁獲している、という話です。輸入はじめの頃は品質があまり良くなかったけれど、最近は品質が向上して日本国内で認知され、業者からの引き合いも増えているといえます。値段の安い寿司屋さん（回転系？）のアナゴは南米産かもしれませんね。味がよければウミヘビの仲間でも何の問題もないですが。

---

#### [編集後記]

9月に入り風もさわやかになり、市場では秋の漁獲物が見られるようになってきました。

当センターホームページでは、「市場を歩く」と題し、神奈川県内各地の漁港の水揚げ物の紹介等をしておりますので、是非ご覧ください。

<http://www.agri-kanagawa.jp/suisoken/ichiba/no174%5B%92%86%91%BA5%5D.html>

---

■水総研メールマガジン（毎週金曜日発行）

■ 配信の変更、解除は、こちらから↓  
<http://www.agri-kanagawa.jp/suisoken/mailmag/>

発行：神奈川県水産技術センター 広報部会  
住所：〒238-0237 神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子  
電話：046(882)2311  
ご意見・お問い合わせ：[fish.415@pref.kanagawa.jp](mailto:fish.415@pref.kanagawa.jp)

---

[メルマガTOPへ](#)

## 神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

# 神奈川県水産技術センター メールマガジン160

密漁



写真1 密漁された標識アワビ



写真2 潜水調査で拾った密漁道具

[記事に戻る](#)

**神奈川県**

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

# 神奈川県水産技術センター メールマガ161

神奈川県水産技術センターメールマガ VOL.161 2006-9-15

-- Fish-mag >° )))< -----

/KN/ 神奈川県水産技術センターメールマガジン VOL.161 2006-9-15

~~~~~

□研究員コラム

- 突棒漁 (企画経営部 清水 顕太郎)
- 釣人のマナー (資源環境部 岡部 久)

○突棒漁 (企画経営部 清水 顕太郎)

みなさんは「突棒漁業」というものをご存じでしょうか。私たちは単に「つきんぼう」と呼んでいますが、カジキなどの大型魚を銚で突いて仕留める勇壮な漁法です。かつては神奈川県でもかなり盛んに行われていたようなのですが、現在では行う船も少なくなったと聞いていました。一度この「つきんぼう」を見てみたいと思っていたところ、先日その機会がありましたので、そのときの模様を書いてみたいと思います。

8月24日にマメジ(クロマグロの幼魚)の標識放流調査(当メルマガVol159の「編集後記」で触れている調査です)で横須賀市長井の漁業者の船に乗せてもらった時のことです。調査はマメジを釣り上げ標識を付けて放流するというもので、小田原沖まで船を走らせた甲斐もあり、順調に所定数を放流し終わりました。調査が無事終了しましたので長井港に向けて帰途につきました。

しばらく走って茅ヶ崎沖に来た時でしょうか、突然船足が落ちたので「ナブラ(魚の群)でも見つけたのかな?」などと考えつつ様子を伺っていると、舵を握っていた船頭の息子さんが「カジキだ!シロカワ!」と叫んでいます。どうやらシロカワカジキが浮いていたようです。私はカジキ見たさに舳先にすっ飛んでいって海面を探しましたが、かろうじてしっぽの先端が見えただけでした。

そうこうしているうちに、船頭さんが銚の準備を始めました(写真1)。柄の長さが5-6メートルはあろうかという長い銚です。柄の先端は三つ叉になっていて(写真2)、それぞれに矢尻(正確には「銚先」とか単に「銚」とか呼ばれます(写真3))を取り付けます。矢尻にはロープがとりつけられており、魚体に刺されると柄からはずれるようになっています。このロープを繰り出して魚が疲れるのを待ち、たぐり寄せて取り込むのです。

銚の準備ができて、船頭の息子さんが銚を構えました。(写真4)船頭さんはリモコンでカジキの動きに合わせて船の向きを調整しながらカジキとの距離を徐々に詰めていきます。ちょうど良い距離になったのか、息子さんが銚を投げました……が、銚は魚にあたりませんでした。後で「しばらくやってなかったから、トンでもないところへ投げちゃった」とおっしゃっていました。

ということで、仕留めたカジキの写真はありません。カジキがとれなかったのは本当に残念でしたが、私はかねてから見てみたいと思っていた「つきんぼう」を見ることができて、とても満足でした。

(写真 突棒漁の様)

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450011/p582832.html>

○釣人のマナー (資源環境部 岡部 久)

お盆が終わり、城ヶ島のあちらこちらで毎度おなじみの光景を目にするようになりました。それは、防波堤の上や、特定の岩場にうずたかく積まれたゴミの山です。この光景はお正月明けや、ゴールデンウィーク明けにもよく見られます。捨てて行く人の多くはつり人で、コマセの入っていたビニール袋や空き缶、ペットボトル、カップラーメンや弁当の入れ物、残飯などが目立ちます。

大型釣具店の名前が入ったビニール袋にいれ、口を縛って捨てられているものも多く見られます。コマセの残りや残飯は野良猫やカラスがアサって散乱したり、腐って悪臭を放っています。中には明らかに生活ゴミと思われるものや大型家電を捨てて行く人さえいます。地元観光協会や漁港事務所、ボランティアの人たちが片付けてくれているのをよいことに、今年も大量のゴミの山を作って帰られました。このようなマナーの低下によって、私もよく通った某港が「釣り禁止」となった事実を知っていたきたいと思います。

最近のニュースでは、世界自然遺産に登録された白神山地で違法な釣りが横行しているというのがありました。山奥の禁漁区で岩魚などを密漁しているということです。自然遺産地域は、動植物すべてを保全していく必要があります、地元では乱獲が続けば生態系に影響を与えかねないとの危機感を強めているそうです。

これも自分さえよければいい人たちによる心無い行為だと思います。「釣り好きに悪い人はいない」などと聞いたことがありますが、すでに死語になっているのでしょうか。こういうことをして平気な人は、注意されても知らん顔、拳句の果てに怒り出す場合が多いと聞きます。自分勝手もここまで来ると、もはや釣りをする資格がないのではないのでしょうか。

[編集後記]

非常に強い台風13号が発生しております。海上で調査を行う機会が多い当センターの研究者にとって、台風の進路や速度などは気がかりです。今回の台風は来週の調査に影響が出るのでしょうか。

■水総研メールマガジン（毎週金曜日発行）
■配信の変更、解除は、こちらから↓
<http://www.agri-kanagawa.jp/suisoken/mailmag/>
発行：神奈川県水産技術センター 広報部会
住所：〒238-0237 神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子
電話：046(882)2311
ご意見・お問い合わせ：fish.415@pref.kanagawa.jp

[メルマガTOPへ](#)

神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

神奈川県水産技術センター メールマガジン161

突棒漁



写真1 「つきんぼう」用の銚を準備しているところ。右側の人（船頭の息子さん）の腰あたりから延びているコードはブリッジから離れたところで操船するリモコンのコードです。



写真2 写真1を拡大してみました。三つ叉に分かれているのが判りますでしょうか？ひとつひとつの先に、矢尻がつきます。



写真3 矢尻です。魚体にささると銚の柄からはずれます。



写真4 銚子を構えたところ。うしろで船頭がカジキの動きに合わせて操船しています。

[記事に戻る](#)

神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

神奈川県水産技術センター メールマガジン162

-- Fish-mag >°))< -----

／KN／ 神奈川県水産技術センターメールマガジン VOL.162 2006-9-22

~~~~~

## □ 研究員コラム

- 台風(T0612)の教訓 (相模湾試験場 石戸谷 博範)
- バラクーダ出現! (栽培技術部 工藤 孝浩)
- 神奈川県の漁協(漁業の現場)紹介35 (企画経営部普及指導担当 鎌滝裕文)

## ○ 台風(T0612)の教訓

(相模湾試験場 石戸谷 博範)

台風12号(2006年)は8月27日(日曜日)に日付変更線より東でハリケーンとして発生し、9月7日(木曜日)カムチャツカ半島付近で低気圧になるまでの10日18時間を北西太平洋上を強い勢力で半円を描くように進行しました(気象庁台風経路図参照)。最低気圧は920Hpa、最大風速は55m/sで、本州に最も接近した9月5日(火曜日)でも、気圧965Hpa、風速34m/sを維持しました。

本州からは500Km以上離れて通過したため、強風は伴いませんでしたが、大きなうねりを発生させ、(独)防災科学技術研究所平塚実験場の観測では、9月4日(月曜日)21時頃、波高3.44m、周期13.8秒を記録し、9月5日(火曜日)午前中は一旦やや穏やかに成りましたが、同日午後、再びうねりが高くなり15時頃には波高3.88m、周期15.0秒に達しました。

このうねりは、三浦半島周辺では比較的穏やかに推移しましたが、西湘地区では大きな影響を及ぼし、定置網では垣網の固定具の損傷、海岸ゴミの入網、防波堤では手摺の脱落、船揚場では石や海藻の打ち上げが見られ、各浜では総出の後始末が行われました。

足柄下郡湯河原町福浦では、漁港の防波堤を大波(写真 福浦定置撮影)が乗り越えましたが、漁船等に被害はありませんでした。

台風が沖合を通過し、房総半島沿岸で強い北風が吹いた場合には、台風通過の翌日に相模湾で急潮が発生します。台風12号では、それを心配していましたが、幸いにも強風は吹かず、大急潮は発生しませんでした。しかし、遙か遠くを通過した台風でも、勢力が強い場合には、大きなうねりが発生し、水深10-20mと言った比較的浅い所に設置されている垣網などでは、激しい動揺による錨綱の切断や移動が発生しました。

急潮では定置網本体、うねり等波浪では垣網の抵抗や動揺を削減する網撤去対策が重要であることを痛感いたしました。

写真 台風12号の経路と様子 <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450011/p758016.html>

## ○ バラクーダ出現!

(栽培技術部 工藤 孝浩)

去る8月23日、当センターでは「夏休み子どもワクワク海体験」の一環として、「かながわの海と生物の教室」を開催しました。

参加28名(うち小学生14名)を4つの班に分け、午前中に城ヶ島大橋下の通称「白秋碑前の磯」で生物の採集をしてセンターに持ち帰り、午後からは図鑑を使って名前調べをします。

毎年同じ時期・場所で生物採集をしますので、まさに定点観察です。今年はどんな生き物がみられるかと、私はこのイベントを楽しみにしています。

採集を終えると、参加者は調査船「江の島丸」の見学に向かいます。その間に採集物が弱らないよう、私は数人のスタッフとともにバケツをリヤカーに乗せ、一足先にセンターに戻りました。

水換え作業を手分けして行っていると、他のスタッフが「変な魚が採れている!」と声を上げました。

見ると、見まごう事なきオニカマスの子魚でした。

オニカマスは、南洋でバラクーダ（人食い魚）としてサメ以上に恐れられているどう猛な大型魚です。稚魚はマングローブ帯などの沿岸域にすみ、まれに黒潮に運ばれて関東沿岸に現れることがあります。

やっぱり今年もお宝発見です。多くの目で一生懸命に生き物を探し回ったのですから、その多くが子供だからといっても侮れません。

私にとって、三浦半島で初めて出会った貴重なオニカマスの稚魚です。午後の名前調べが終わったら標本にさせていただきます。しかし、私は午後から出張があり、魚に詳しい研究員に稚魚の確保を頼んで出かけました。

翌日、私は思いきり落胆しました。稚魚がバケツ内で行方不明になったと言うのです。おそらく、同居していたカニに食われてしまったのでしょう。

しかし、その日のうちにセンター裏の岸壁で、別のオニカマスの稚魚が発見されていました。研究員が長柄の夕毛網で採集を試みるも、網目から抜けてしまったそうです。

その数日後、アマモの調査でセンターの裏に潜ったところ、やっぱり稚魚はいました。しかも6尾も！うち2尾を採集し、念願の三浦半島産標本を得ることができたのです。

実は、稚魚との遭遇は今回が初めてでしたが、全長1mを超える成魚にはセンターの裏で遭遇したことがあるのです。

時は1988年6月のスノーケリング中で、ひどく潮が濁って視界が効かない中、いきなり至近距離で鉢合わせしました。あの時は本当に肝を潰しました。

私が初めてオニカマスの稚魚を採集したのは、何と横浜市内です。1999年8月の金沢漁港内でした。その月には隣接する海の公園で、私の知り合いが稚魚の水中撮影にも成功しています。

これから10月までは、南の海からのお宝に出会うチャンスが最も高まります。さあ、海辺に出かけましょう。

写真 オニカマスの稚魚 <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450011/p758021.html>

---

## ○神奈川県漁業現場の紹介 3 5

今回は、横須賀市東部漁業協同組合北下浦（きたしたうら）支所を紹介いたします。

北下浦支所は、横須賀市長沢というところにあります。私の受け持つ担当区としては最南端に位置する漁協です。京浜急行の駅にも京急長沢駅がありますが、駅からそれほど遠くないところに漁協事務所があります。旧道沿いに事務所はありますが、この近辺の町並みはちょっと東京の下町っぽい感じがします。また、近くには長岡半太郎記念館、若山牧水資料館などがあり、綺麗に整備された野比海岸（のびかいがん）がやはり目を引きます。

北下浦支所には立派な漁港があります。ただし、この漁港はまだ完成していません。台風などで大きな波が来ると漁港にいる漁船は避難しないといけません。海岸線にある漁港の宿命ともいえるかもしれませんね。天気が晴れていても、風が強いと漁に出られない漁業にはそんな厳しい自然を相手にしている商売です。

漁師さんは野比海岸から北下浦漁港周辺、津久井までと広範囲にわたっています。どちらからといえば小さい漁船で漁を行っている漁師さんの方が多いです。この地区の主な漁業は刺網、一本つり、ワカメ養殖などのほか釣り船もあります。

北下浦漁港の目の前には国道134号線が通っており、三浦半島ドライブなどでは、この漁港を簡単に目にすることができます。

横須賀市東部漁業協同組合北下浦支所

住所 〒239-0842横須賀市長沢1-3-15

電話 046-848-0046

行き方 京急線京急長沢駅より徒歩10分程度

北下浦漁港周辺などの写真はこちらから<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450011/p758022.html>

(取材：企画経営部普及指導担当 鎌滝)

(次回は、普及指導員現場百景のその2です。実はその道の専門家にも聞いているのですが、未だによくわかっていないことがあります。次回、どのようなことか写真でご紹介しますので、もし、見たことある、知っているという方がいましたらメールなどでご連絡をお待ちしております。)

---

[編集後記]

今年もさんまが豊漁でお店には安値で並ぶようになりました。旬の食材が味わえるのは水産物のよいところですね。

神奈川県でも旬の水産物がたくさん水揚げされています。

詳しくは当センターのホームページをご覧ください。

<http://www.agri-kanagawa.jp/suisoken/Sakana/Calender/>

-----  
■水総研メールマガジン（毎週金曜日発行）

■配信の変更、解除は、こちらから↓

<http://www.agri-kanagawa.jp/suisoken/mailmag/>

発行：神奈川県水産技術センター 広報部会

住所：〒238-0237 神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子

電話：046(882)2311

ご意見・お問い合わせ：[fish.415@pref.kanagawa.jp](mailto:fish.415@pref.kanagawa.jp)

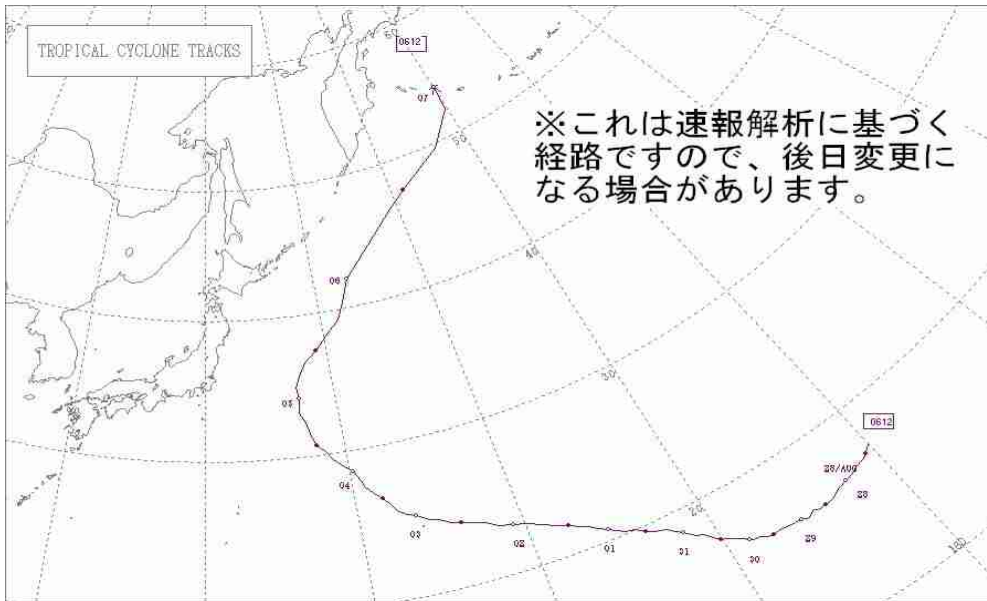
-----  
[メルマガTOPへ](#)

## 神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

# 神奈川県水産技術センター メールマガジン162-1

## 台風12号の経路と様子



台風12号経路図 気象庁のホームページより引用



台風12号のうねりによる越波(福浦漁港) 撮影:福浦定置 2006.09.05

[記事に戻る](#)

## 神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

# 神奈川県水産技術センター メールマガジン162-2

バラクーダ出現！



オニカマスの稚魚

[記事に戻る](#)

## 神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。



# 神奈川県水産技術センター メールマガジン162-3

横須賀市東部漁協北下浦支所周辺の写真



小さな漁港ですが、立派な漁港です。右側の看板には第1種北下浦漁港と記載されていますが、利用規模が地元のみ小さい漁港は第1種漁港と言われます。三崎漁港のように利用が全国規模になると第3種漁港と言われます。



荷捌き所もっています。漁船も小型ながら漁港内に係留されています。



左側の写真はワカメの種苗棟です。ここでワカメの種糸を管理しています。夏場は仮眠（水温、明るさの調整でワカメの種を眠らせておく作業）をさせて、秋から海へ出して養殖の準備を始めます。ワカメの収穫は来年の1月からになります。ワカメ干しは冬の風物詩ですが、種の管理まで含めると1年中面倒を見ていることになります。右側の写真は、漁港から三浦海岸方面を撮影しました。こちら方向に漁港はオープンになっています。



旧道のちょっと奥まったところに漁協事務所があります。右側の写真は漁協事務所のすぐ前の道路です。道幅が狭くて下町の感じがちょっと漂ってきます。



野比海岸は、海岸がきちんと整備されていて綺麗です。海岸線をずっと歩くことができます。散歩するには絶好のコースと言えるでしょう。この野比海岸にも右側の写真のように漁船があります。



漁協のすぐそばにある長岡半太郎記念館、若山牧水資料館です。長岡半太郎は、プラス電荷を帯びた原子核の周りを電子が回っているといういわゆる土星型の原子モデルを発表した人です。ここはもともと別邸のあったところで京浜急行が記念館をつくり横須賀市に寄贈したものです。

[記事に戻る](#)

## 神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。